

令和7年10月4日（土）～11月30日（日）

展示室

特別展示室

「旅」は新たな文化に出会えたり、非日常を体験できたりします。江戸時代になると、文人画家たちも旅に出て、旅先で見た風景や古画などを描きました。また理想の風景を構築し、絵の世界を旅するような作品も描かれました。本展では、江戸時代に描かれた風景画を中心に、実際に旅する気持ちでお楽しみください。

旅する絵画

指定	作者	作品名	制作年	材質	形状	備考
	谷 文晁	秋山孤亭図	江戸時代・天明年間	紙本墨画淡彩	掛幅	
	谷 文晁	李白観瀑図	江戸時代・文化年間	紙本墨画	掛幅	
重文	渡辺華山	一掃百態	文政元(1818)年	紙本墨画淡彩	冊子	展示期間 10月4日(土)～10月13日(月・祝)
	渡辺小華編集	一掃百態	明治17(1884)年	紙本版本	冊子	展示期間 10月15日(水)～11月30日(日)
重文	渡辺華山	西州真景図	文政8(1825)年	紙本着色	卷子	個人蔵 展示期間 10月4日(土)～10月13日(月・祝)
	渡辺華山	亀台金母図	文化8(1811)年	紙本墨画淡彩	掛幅	
	渡辺華山	雪山高隠図	天保8(1837)年	絹本着色	掛幅	
重文	椿 椿山	山海奇賞図	文政10(1827)年	紙本着色	卷子	個人蔵 展示期間 10月4日(土)～10月13日(月・祝)
	椿 椿山	山海奇賞図稿	文政10(1827)年	紙本墨画淡彩	卷子	巴江神社蔵 展示期間 10月15日(水)～11月30日(日)
	椿 椿山	日光道中真景図	文政12(1829)年	紙本墨画	卷子	展示期間 10月15日(水)～11月31日(日)
	平井顕斎 福田半香	山水図屏風	弘化2～3 (1845～46)年	紙本墨画淡彩	屏風	
	山本栞谷	山水図	慶応3(1867)年	紙本墨画淡彩	掛幅	
	平井顕斎 山本栞谷	蜀栈道図	嘉永4(1851)年	絹本着色	掛幅	
	福田半香 画 萩原秋巖 書	興到筆随帖	天保13(1842)年	絹本着色	画帖	
	歌川国芳 歌川広重 三代目歌川豊国	東海道五十三對	天保15～弘化4 (1844～47)年	紙本墨摺	画帖	個人蔵 展示期間 10月15日(水)～11月30日(日)
	田崎草雲	浅間山麓風雲会図	明治時代	紙本墨画淡彩	掛幅	
	小室翠雲	武陵桃源図	昭和時代	絹本着色	掛幅	
	小室翠雲	白雲紅樹図	昭和時代	絹本着色	掛幅	
	白井烟嵩	鳳来山秋景真趣図	昭和12(1937)年	紙本墨画淡彩	掛幅	
	白井烟嵩	日出の石門	昭和時代	絹本着色	掛幅	
	白井烟嵩	伊良湖畔	昭和時代	絹本着色	掛幅	
	藤懸静也	駿遠過眼之景	昭和13(1938)年	紙本墨画	卷子	

<作者紹介>

渡辺華山 寛政5(1793)年～天保12(1841)年

渡辺定通の長男として、江戸に生まれました。はじめ平山文鏡に師事し、白川芝山、金子金陵、谷文晁らに絵を学びます。華山は写実的な描写にこだわりました。特に肖像画を得意とし、西洋の陰影法を巧みに使い、独自の画風を確立しました。また重要文化財「一掃百態図」(当館蔵)など、当時の文化や風俗を伝える資料が残っています。

谷 文晁 宝暦13(1763)年～天保11(1840)年

田安家家臣で詩人でもあった谷麓谷の子として江戸に生まれました。はじめ加藤文麗、渡辺玄対に絵を学びました。寛政4(1792)年、田安家出身の白河藩主松平定信の近習となり、『集古十種』などを編纂しました。当時の画壇の重鎮として活躍し、渡辺華山をはじめ多くの弟子を輩出しました。

椿 椿山 享和元(1801)年～嘉永7(1854)年

はじめ金子金陵に師事しました。金陵が亡くなった後、同じ金陵の門下であった渡辺華山の弟子になります。蛸社の獄で華山が逮捕された際は、その救済に奔走しました。華山没後は、華山の家族を献身的に支えました。花鳥画を得意とし、輪郭線を描かない方法で花卉図などを多く制作しました。

渡辺小華 天保6(1835)年～明治20(1887)年

渡辺華山の次男です。小華が7歳の時に、父である華山が亡くなりました。その後、椿椿山の画塾に入門し、花鳥画の技法を学びます。22歳の時、兄の立の死後、渡辺家の家督を継ぎ、30歳で田原藩の家老に就きました。明治維新後、内国勸業博覧会への出品や明治宮殿の杉戸絵などを制作しました。

歌川広重 寛政9(1797)年～安政5(1858)年

本名は安藤重右衛門。定火消(江戸幕府が設置した消防組織)を務める安藤源右衛門の長男として生まれました。歌川豊広に入門し、文政元(1818)年に一遊斎という号でデビュー。「東海道五十三次」や「江戸名所」などのシリーズを発表しました。また短冊状の花鳥画や肉筆画も描いています。

福田半香 文化元(1804)年～元治元(1864)年

遠江国見附(静岡県磐田市)で生まれました。はじめ掛

川藩の絵師村松以弘、続いて勾田台嶺に絵を学びました。天保4(1833)年、田原に帰郷中の渡辺華山を訪ね、その後華山の弟子になります。半香は花鳥画も描きましたが、山水画を得意としました。

平井顕斎 享和2(1802)年～安政3(1856)年

遠江国川崎(現在の静岡県牧之原市)に生まれました。はじめ掛川藩御用絵師の村松以弘に、のち江戸に出て谷文晁、渡辺華山に師事しました。顕斎は華山の作品を丹念に模写し、山水画を最も得意としました。重要文化財の渡辺華山筆「芸妓図」(静嘉堂文庫美術館蔵)は顕斎へ贈られたものです。

山本梨谷 文化8(1811)年～明治6(1873)年

石見国津和野(現在の島根県津和野市)で生まれました。はじめ津和野藩家老の多胡逸斎に絵を学びました。江戸へ出府後、渡辺華山の弟子になり、天保11(1840)年には椿椿山へ入門します。嘉永6(1853)年、津和野藩絵師になりました。山水画や人物画を得意としました。

田崎草雲 文化12(1815)年～明治31(1898)年

江戸神田で生まれました。親戚の金井烏洲に絵を習い、谷文晁や渡辺華山らに私淑しました。39歳の時に足利藩の絵師として仕えました。明治維新後は足利に居住して画業に専念します。内国勸業博覧会などへ出品し、賞牌を受けました。明治23(1890)年には帝室技芸員に任命されました。

小室翠雲 明治7(1874)年～昭和20(1945)年

画家である小室牧三郎の長男として現在の群馬県館林市に生まれました。田崎草雲に師事して南画を習います。日本美術協会展などに出品し受章を重ね、文展の審査員も務めました。昭和17(1942)年に南画鑑賞会を設立し『南画鑑賞』を刊行、昭和19年に帝室技芸員に任命されました。

白井烟崑 明治27(1894)年～昭和51(1976)年

豊橋市花田町に生まれました。16歳より従兄の白井永川に南画を学びます。松林桂月に師事し、大正9(1920)年、第2回帝展初入選以後、帝展や新文展に出品し、戦後は日展へ出品しました。昭和49(1974)年、渡辺華山顕彰の功績が認められ、田原町町政功労者として表彰されました。